

令和7年度橋梁維持管理研修(オンライン併用)実施要領 ※共催

- 目的 橋梁の維持管理に関して、点検・診断及び補修の設計・施工に関する基礎的な知識の習得を図る。
また、点検診断、補修設計において必要となる橋梁構造の理解・習得を図る。
- 受講対象者 (関連分野) 建設業、測量設計業、地質調査業等に従事する民間の技術者
※受講対象者以外の方でも受講できますが、研修内容が専門的であることを申し添えます。
- 募集人員 75人 (うちオンライン受講者20人程度)
※公平性を考慮し、原則として1社あたり2名様までの受付とします。
※定員を超える申込みがあった場合は締切前に募集を終了させていただきますので御了承ください。

【注意事項】

研修に使用するテキストは、推進機構ホームページからダウンロードしていただき、各自印刷して受講してください。
受講証明書についても、研修終了後にホームページからダウンロードにより発行となります。
なお、研修テキストは、「職場内の研修資料」や「個人の資料」としてのみの利用としていただくようお願いします。

■オンライン受講を希望される方への注意事項

- (1) Zoomを使用するオンライン研修です。事前にZoomのインストールをお願いします。
Zoom接続用URLは、研修前日までにメールにてお知らせします。
※県より配信(Teams使用)する画像を、Zoomにて配信します。
- (2) カメラとマイクの装備されたパソコンを、受講者お一人につき1台用意していただける方が対象です。
カメラ・マイクのないパソコンで受講された場合、受講証明書を交付できない場合がありますので御注意ください。
- (3) 本研修は、(一社)全国土木施工管理技士会連合会継続教育(CPDS)のプログラム認定を申請予定です。
プログラム認定された場合、オンライン受講者様のユニット登録は、推進機構が代行して申請を行います。
会場受講者様のユニット登録は、御自身での申請となります。
(オンライン受講者様御自身によるユニット登録申請はできません。)

- 研修期間 令和7年7月3日(木) ~ 令和7年7月4日(金) 2日間
- 場所 宮崎県建設技術センター 3階 大教室 (宮崎市清武町今泉丙2559-1) ライブ配信あり
- 講義内容 2ページ目、3ページ目参照
- 申込方法 宮崎県建設技術推進機構ホームページの、研修事業・案内 → 研修案内 を御覧いただき、
その下に記載の 令和7年度研修計画 → 1. 一般研修 → 橋梁維持管理研修(オンライン併用) →
申込み(フォーム)にてお申込みください。

※お申込み後、「研修のお申し込みメール(受講票)」が届きます。15分後までに届かない場合は御連絡ください。
「研修のお申し込みメール(受講票)」は印刷されまして、受付時に御提示ください。(オンライン受講の方は不要です。)
※業務の都合等で受講できない場合は代替りの方が受講しても構いませんが、必ず事前に御連絡ください。

- 申込締切 令和7年6月20日(金)

■研修経費及び納入方法、納入期限

- (1) 研修経費 一人当たり 10,000円(税込み) ※昼食代は含みません。
- (2) 納入方法 銀行振込のみ (振込手数料は各自御負担ください。)

・「ご依頼人」の欄に、「イ」(橋梁「維持」管理研修の略)と「受講番号」(推進機構からのメールに記載)を御記入ください。

(記入例) 会社名が推進建設(株)、受講番号が130番の場合
イ130スイシンケンセツ(カ …フリガナの欄 ※ネットバンキング等で、左記のように
イ130推進建設(株) …おなまえの欄 できない場合は、会社名だけで結構です。

・振込先 宮崎銀行 県庁支店 普通 1479834 公益財団法人宮崎県建設技術推進機構
ザイ)ミヤザケンケンセツギジユツスイシンキコウ

- (3) 納入期限 令和7年6月24日(火)まで

■申込の取消し・返金について

- (1) 返金可 令和7年6月24日(火)までの取消し : 受講料から振込手数料を除いた額を返金します。
- (2) 返金不可 令和7年6月25日(水)以降の取消し : 返金できませんが、ホームページにログインするID・パスワードを送付しますので、テキストのダウンロードは可能です。

- 持参品(会場受講の方) 受講票(研修のお申し込みメールを印刷したもの)、筆記用具

- 受付日時 2ページ目参照 ※会場受講の方とオンライン受講の方では、受付時間が異なります。

■申込先及び問合せ先

(公財)宮崎県建設技術推進機構 土木課 企画研修システム担当
〒880-0803 宮崎市旭1丁目2番2号 企業局庁舎5階
TEL 0985-20-1830
メールアドレス mks-25@mk-suishin.or.jp
ホームページ https://www.mk-suishin.or.jp
※宮崎県建設技術センターへのお問合せはご遠慮ください。



※本研修は、(一社)全国土木施工管理技士会連合会継続教育(CPDS)、(一社)建設コンサルタンツ協会継続教育(CPD)のプログラム認定を申請予定です。

令和7年度橋梁維持管理研修(オンライン併用)概要 ※共催

【概要】※日時、予定人員、内容等は変更となる場合がございます。

期 間	令和7年7月3日(木) ～ 令和7年7月4日(金) 2日間					
場 所	宮崎県建設技術センター 3階 大教室 (宮崎市清武町今泉丙2559-1) ライブ配信あり					
目 的	橋梁の維持管理に関して、点検・診断及び補修の設計・施工に関する基礎的な知識の習得を図る。また、点検診断、補修設計において必要となる橋梁構造の理解・習得を図る。					
受講予定者 (関連分野)	建設	○	法面	—	測量設計	○
	地質	△	造園	—	その他	(県・市町村職員)
予 定 人 員	75人 (うちオンライン受講者20人程度)					
主 催	宮崎県建設技術センター (公財)宮崎県建設技術推進機構					

【時間割】

月日	曜日	時間	教科目	講師
7月3日	木	8:40～9:10	オンライン受講者受付・・・Zoomに接続し、 <u>お名前のみを漢字フルネーム</u> で表示してください。 (Zoom接続用URLは、研修前日までにメールにてお知らせします。)	
		8:45～9:10	会場受講者受付	
		9:15～9:30	開講式・オリエンテーション	
		9:30～10:20	橋梁の長寿寿命化に向けて	宮崎県 県土整備部 道路保全課 維持担当 選定中
		10:20～10:30	休憩	
		10:30～12:00	橋梁メンテナンス	九州地方整備局 宮崎河川国道事務所 総括保全対策官 増尾 明彦 氏
		12:00～13:00	休憩	
		13:00～14:20	橋梁維持管理と橋梁構造のポイント	(一社)建設コンサルタンツ協会 九州支部 課長 高橋 厚彦 氏
		14:20～14:30	休憩	
		14:30～15:20	橋梁点検・診断の要点	(一社)建設コンサルタンツ協会 九州支部 課長 高橋 厚彦 氏
		15:20～15:30	休憩	
		15:30～17:00	橋梁塗装の維持管理	関西ペイント株式会社 鹿児島営業所 係長 竹山 哲平 氏
7月4日	金	8:30～8:55	オンライン受講者受付・・・Zoomに接続し、 <u>お名前のみを漢字フルネーム</u> で表示してください。 (Zoom接続用URLは、研修前日までにメールにてお知らせします。)	
		8:30～8:55	会場受講者受付	
		9:00～10:20	コンクリートの劣化機構	宮崎大学 名誉教授 中澤 隆雄 氏
		10:20～10:30	休憩	
		10:30～12:00	耐震設計概論	(一社)建設コンサルタンツ協会 九州支部 課長 久保田 展隆 氏
		12:00～13:00	休憩	
		13:00～13:50	鋼橋の補修・補強	(一社)建設コンサルタンツ協会 九州支部 課長 久保田 展隆 氏
		13:50～14:00	休憩	
		14:00～15:20	コンクリート橋の補修・補強(上部工)	コーアツ工業株式会社 福重 耕平 氏
		15:20～15:30	休憩	
		15:30～17:00	コンクリート橋の補修・補強(耐震・下部工)	株式会社富士ピーエス 津留 和人 氏
		17:00～17:05	閉講式	

【 内 容 】

講義名	内容
橋梁の長寿命化に向けて	・宮崎県汗人(アセット)マネジメントの取組状況について ・維持管理マニュアル(橋梁編)及び橋梁点検マニュアルの要点について ・県内の橋梁の状況(点検・診断結果の分析)について
橋梁メンテナンス	・道路構造物(橋梁)メンテナンスに関する話題 ・道路橋定期点検概論
橋梁維持管理と橋梁構造のポイント	橋梁の維持管理(点検、診断、補修設計)を行う上で、特に必要となる橋梁構造について
橋梁点検・診断の要点	・橋梁点検と調書作成(点検結果のまとめ)のポイント ・新しい点検手法、点検技術 ・診断のポイント
橋梁塗装の維持管理	・橋梁維持管理における橋梁塗替仕様について ・有害物質(鉛、PCB等)を含む既存塗膜の処理について
コンクリートの劣化機構	コンクリートの劣化機構とその対策について (中性化、塩害、アルカリシリカ反応など)
耐震設計概論	・橋梁の維持管理に必要となる耐震設計の考え方(道路橋示方書など)
鋼橋の補修・補強	・鋼橋の劣化事例と補修・補強の方法について
コンクリート橋の補修・補強 (上部工) (耐震・下部工)	・PC上部工の劣化事例と補修・補強について ・耐震設計の概要とPC橋における下部工の耐震補強事例について